

新型コロナウイルスの感染防止のために (メルマガ4月号)

新型コロナウイルスの感染拡大が止まりません。例年であれば、4月は新年度のスタートであり、たくさんの学びの機会が始まる時ですが、全く予想していなかった厳しい事態となっています。

当生涯学習財団の講座・イベントについては、当分の間、感染防止のために中止・延期とし、また生涯学習プラザの施設提供も休止することにいたしました。開講を心待ちにされていたり、講師の先生方、施設を利用される皆様には、たいへん申し訳なく残念に思いますが、何とぞご理解くださいますようお願い申し上げます。

学習機会が重要であることは申すまでもありませんが、この緊急事態において、尊い命、かけがえのない命をコロナウイルスからいかに守るかということは、何よりも最優先にしなければなりません。川崎市では、4月8日以降は連日2桁の感染者が確認されており、4月11日時点での累計感染者は114人です。隣接する横浜市では、本市の2.5倍の人口370万余に対して、同時点での累計感染者数156人ですから、人口規模からすれば川崎市の感染者数は極めて憂慮すべき数値になっていると思います。感染経路が不明なケースが増えていますので、爆発的な感染にならないことを祈らずにはられません。

去る4月7日、内閣総理大臣は法律に基づく「緊急事態宣言」を行い、7都府県の住民に対して、人と人との接触を7割から8割削減することを目指して外出を自粛するよう呼びかけました。神奈川県知事も同様に外出自粛を強く求めています。ウイルスは人から人へ感染するものですから、いかに接触を最低限に止めるかは私たちの行動にかかっています。

自分が感染しないためにも、そして周囲の人、自分の大切な人に感染させないためにも、お互いに手洗い、咳エチケットなどに心がけるとともに、「密閉・密集・密接」を回避し、不要不急の外出を極力控えることなどが求められています。

一方、こうした中であって、医療現場はもとより、生活必需品の販売や流通、様々な公共機関など、私たちの命と生活を懸命に支えてくださっている方々のご努力、ご苦勞に感謝・敬意の気持ちでいっぱいになります。

4月6日、市内の小中学校では入学式が行われました。感染防止のため出席者の制限、時間の短縮、出席者を分けた二部制での開催が行われるなど、例年とは様変わりした状況でしたが、それでも子供たちにとって、希望と期待を抱いて心弾むスタートであったことでしょう。早く勉強したり友だちと元気に遊んだりしたいことと思いますが、登校できるまでの間、不自由な毎日を何とか耐えてほしいと願っています。

学校に、市民生活に、そして生涯学習の各種活動においても、当たり前の日常が戻るために、ともに支え合い、助け合い、励まし合っていきたいと思います。(N.W)